

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 5 月 22 日

群馬県知事 山本 一太 殿

提出者 〒379-1617  
住 所 群馬県利根郡みなかみ町湯原45  
須田建設株式会社  
氏 名 代表取締役 須田 高幸

電話番号 0278(72)2332

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	須田建設株式会社
事業場の所在地	群馬県利根郡みなかみ町湯原45
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類：建設業 中分類：総合工事業
②事業の規模	元請完成工事高（910,988千円）
③従業員数	32人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり



(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙2のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度(令和4年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	排出量	10.140 t	0.230 t
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物処理法に則り、廃棄物の適正処理が行われるよう、再生資源利用計画書、再生資源利用促進計画書を添付した施工計画書を作成する。</li> <li>・産業廃棄物の発生量を抑制できるような工法がある場合は発注者と協議する。</li> </ul>		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	排出量	0.100 t	0.100 t
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物処理法に則り、廃棄物の適正処理が行われるよう、再生資源利用計画書、再生資源利用促進計画書を添付した施工計画書を作成する。</li> <li>・余剰材の削減と再利用の徹底を図る。</li> <li>・工法の改善、発注方法の工夫を図る。</li> </ul>		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず、がれき類、紙くず、木くず、繊維くず等を確実に分別する。 協力会社に対し分別の周知徹底を図る。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず、がれき類、紙くず、木くず、繊維くず等を確実に分別する。 協力会社に対し分別の周知徹底を図る。 分別を確実にし、建設混合廃棄物を減らす。		

廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
10.675 t	0.131 t	12.221 t	2,979.368 t

廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
8.000 t	0.100 t	10.000 t	1,800.000 t

紙くず	木くず	繊維くず	
0.259 t	247.146 t	0.084 t	t

紙くず	木くず	繊維くず	
0.100 t	180.000 t	0.100 t	t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまで実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまで実施した取組) 実施していない			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) 実施予定なし			

廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
t	t	t	t

廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
t	t	t	t

廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
t	t	t	t
t	t	t	t

廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
t	t	t	t
t	t	t	t

紙くず	木くず	繊維くず	
t	t	t	t

紙くず	木くず	繊維くず	
t	t	t	t

紙くず	木くず	繊維くず	
t	t	t	t
t	t	t	t

紙くず	木くず	繊維くず	
t	t	t	t
t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	全処理委託量	10.140 t	0.230 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	10.140 t	0.230 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・委託基準に従って廃棄物を委託できる業者を選定し書面による契約を実施する。 ①許可証、品目、事業範囲、許可期限 ②委託産業廃棄物の種類に応じた車両、車種の有無 ③「産業廃棄物運搬車」の表示		



廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
t	t	t	t

廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
t	t	t	t

廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
10.675 t	0.131 t	12.221 t	2,979.368 t
t	t	t	t
10.675 t	0.131 t	12.221 t	2,979.368 t
t	t	t	t
t	t	t	t

紙くず	木くず	繊維くず	
t	t	t	t

紙くず	木くず	繊維くず	
t	t	t	t

紙くず	木くず	繊維くず	
0.259 t	247.146 t	0.084 t	t
t	t	t	t
0.259 t	247.146 t	0.084 t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油
	全処理委託量	0.100 t	0.100 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	0.100 t	0.100 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終処分場への処分量を低減するため、リサイクル率の高い優良認定業者を選定し委託する。</li> <li>・再生利用、熱回収が可能である廃棄物については、再生利用業者、熱回収業者へ処理委託する。</li> </ul>			
※事務処理欄			

廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
9.607 t	0.117 t	10.998 t	2,681.431 t
t	t	t	t
9.607 t	0.117 t	10.998 t	2,681.431 t
t	t	t	t
t	t	t	t

紙くず	木くず	繊維くず	
0.233 t	222.431 t	0.075 t	t
t	t	t	t
0.233 t	222.431 t	0.075 t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物発生工程フローシート

↑ …… 発生量の把握時点



